

06-02-13 (村岡)

〔 表面活性剤 〕

武田尾溪谷、宝塚付近、甲武橋付近に、表面活性剤によると見られる泡立ち現象の報告がある。

表面活性剤は、通常、合成洗剤中に含まれる。

可溶性の有機高分子化合物。

別名、メチレンブルー活性物質 (MBAS)

1965 年以前、アルキルベンゼンサルフォネート (ABS) 生分解性が悪い

1965 年以降、直鎖型アルキルサルフォート (LAS) 生分解性が良い

表面張力を低下させ、物を濡れやすくし、汚れを水に放出させる。

起泡剤、乳化剤として洗剤、化粧品、工業用に広く利用。

歯磨き粉：約 2 % シャンプー：15 % 以上

合成洗剤：約 24 % 石けん：60 % 以上

環境面では污水処理プラントや下水処理水に含まれるわずかな有機物質を包み、表流水の発泡原因となる。

生物への影響は、界面活性剤の分解物質としてノニルフェノール（一種の環境ホルモン）が検出されている（多摩川，井口泰泉、1997~8 年）。現状では生態系等への影響は事例的にとどまっているようで、詳細は不明である。

公共用水域では兵庫県では MBAS が「その他」の項目としてモニタリング対象となっている。計測限界は 0.01mg/l で、状況汚染の目安は 0.1mg/l とされる。水道原水の基準は 0.2mg/l である。

武庫川流域では、平成 15 年度測定においては、河川水では基準点で測定されていない。大抵は、計測限界以下であると見られる。また湖沼（千苧水源池）では、13 回の測定の内、7 月に 0.02mg/l 、他は 0.01mg/l かそれ以下である。